

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調査

No. 0502022

政策目標	2 ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	B	
単位施策	3 少子化問題への対応	政策事務分類	5 法定受託事務	
事業名	子ども手当支給事業	見直し年度		
事業期間	平成22年度～平成24年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	対象子ども数		#N/A	
事業目標	全受給対象者への支給	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	2 子ども手当法	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	0歳から中学校終了(15歳になった後の最初の3月31日)までの子どもを対象とし、子どもを養育する父母等に対して、子ども手当を支給する。 支給額 子ども一人につき、月額13千円 (平成22年度は、月額13千円) 平成23年10月支給から 0～3歳未満(一律) 15千円 3歳～小学校修了前(第1子・第2子) 10千円 3歳～小学校修了前(第3子以降) 15千円 中学生(一律) 10千円			子ども手当支給	子ども手当支給	子ども手当支給
	事業費(千円)	143,684	0	63,726	69,123	10,835
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	109,355		48,909	52,503	7,943
	道支出金	17,150		7,405	8,303	1,442
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	17,179		7,412	8,317	1,450	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	147,204	0	60,574	70,965	15,665
	財源内訳					
	国庫支出金	107,787		47,040	52,811	7,936
	道支出金	22,777		6,929	9,568	6,280
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	16,640		6,605	8,586	1,449	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 国庫支出金 ・子ども手当交付金 ・子ども手当事務取扱交付金 道支出金 ・子ども手当負担金 【評価・実績】	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) 子ども手当支給 3歳未満 78人 3歳以上小学校修了前 290人 小学校修了後中学校修了前 110人 ※前年度評価結果	(実施内容等) 子ども手当支給 3歳未満 87人 3歳以上小学校修了前 281人 小学校修了後中学校修了前 103人 ※前年度評価結果 A-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 子ども手当支給(2月、3月分) 3歳未満 86人 3歳以上小学校修了前 283人 小学校修了後中学校修了前 100人 ※前年度評価結果 A-休止
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値		全受給対象者への支給	全受給対象者への支給	全受給対象者への支給
	年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	95%	103%	145%
	全体達成率	0%	0%	42%	92%	102%

事業名	子ども手当支給事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係長	磯田昭次

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	中学校修了前の子を養育している保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	全受給者への支給								
【抱える課題やニーズは】	少子化対策の必要性とともに子育てに関して経済的支援が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保護者の経済的不安を解消するとともに、今後、出産などを迎える若い世代に対し、子育てに関する安心が得られる。	① 対象となる子の人数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>469名</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>469名</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	469名	実績値	469名	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	469名										
実績値	469名										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を表現したいか】 ※成果=目的	子どもを養育している方の生活の安定、子どもの健全な育成及び資質の向上が図られる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	手当支給	6月に受給者へ子ども手当を支給した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	自治体の義務的業務であり、子どもを養育している方へ支給することで、生活の安定、児童等の健全な育成、資質の向上を図るため必要である。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	子育てに関しての経済的支援を行い、少子化対策が図られた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	子ども手当特別措置法に基づき、町が支給事務を行った。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	子ども手当から児童手当への変更に伴ってシステムの見直しを行い、現行のシステムを改修するのではなく、別途児童手当システムを導入した。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	システム導入費用は全額補助対象。
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	子ども手当特別措置法に基づき、全ての対象者へ支給したので公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
課題あり	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

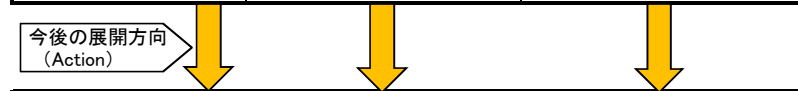
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休廃止の検討が必要

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
子ども手当特別措置法に基づき、平成24年2月、3月分を以て支給は終了したが、経済的支援を必要とする子育て世帯にとって有益であった。		



終了		
政権の施策転換で、平成24年4月分からは児童手当へ変更となっている。		

※展開方向の区分